

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構平成 28 年度業務実績評価に関する意見書（案）

平成 29 年 7 月 20 日

宇宙政策委員会宇宙航空研究開発機構分科会

．法人全体の評価に係る意見**1．法人全体を通じた評価に関する御意見**

- ； 様々な分野で国際協力が進み、日本だけでなく、アジア・中東・アフリカ・南米諸国などとの協力が進んだことは評価に値する。
- ； JAXA の人材が国連その他の国際機関の要職に就任するなど、宇宙活動に日本が大きな役割を果たしていることが国際的に認知されたことは素晴らしい。JAXA の活動の認知度が上がり、様々な個人や組織・企業が宇宙に感心を持つことで、宇宙産業のすそ野が広がり、また日本の優れた中小企業の宇宙産業への参加障壁が下がったといえる。

2．翌年度以降にフォローアップが必要な事項、課題等の御意見

- ； 特段の意見無し。

3．長のマネジメントについての御意見

- ； 特段の意見無し。

4．その他

- ； 宇宙システムの脆弱性が大きな課題となっており、宇宙政策委員会では、宇宙システム全体の機能保証(Mission Assurance)の強化に関する基本的考え方を本年 2 月に策定した。宇宙安全保障の分野では、今後、宇宙システムの機能保証が大きな課題となるため、この分野でも、大きな役割を果たしていただきたい。

．内閣府所管の評価項目に係る意見**1．宇宙安全保障の確保****(1) 衛星測位**

- ； 精密軌道・クロック推定システム(MADCOA)の研究開発成果は優れたものであり、今後の安定的な精度確保、そこからのさまざまな宇宙システムや産業への波及効果にも繋がるのが考えられるので、A 評価でもよいのではないか。

【翌年度以降に向けた課題】

- ； 準天頂衛星は、GPS システムに対する機能保障の観点からも、極めて重要な事業であり、この視点からの事業展開も考えていただきたい。

(2) 衛星リモートセンシング

【翌年度以降に向けた課題】

- i 超低高度衛星技術試験機「S L A T S」は安全保障分野での活用が期待でき、具体的活用、求められる性能などについて関係府省等との検討を推進していただきたい。
- i 海洋状況把握 (Maritime Domain Awareness : M D A) への宇宙技術活用について、衛星リモートセンシングは要の 1 つでもあるので、どのような形で「政府が行う検討を支援」したかを具体的に記入すると説得力が増すと考える。

(3) 衛星通信・衛星放送

- i 大容量データ伝送と即時性の確保、という観点からみて、計画通りに進展していると評価し得る。

(4) 宇宙輸送システム

- i ロケットの打ち上げ成功率が極めて高かっただけでなく、コスト削減も可能にしたことは素晴らしい。

【翌年度以降に向けた課題】

- i コスト削減のなかでも、世界に誇れるオンタイム率の確保について今後も重視していただきたい。
- i 打ち上げ射場、即応型の小型衛星等の打ち上げシステムに関する検討で、より積極的に活動いただきたい。
- i 施設・設備の老朽化が進む中で、どのように劣化傾向を計測し、評価して用いているのかの具体的な記述があると、顕著な成果を評価するのに有益なので、その部分も加えていただきたい。

(5) その他の取組

【翌年度以降に向けた課題】

- i 宇宙状況監視 (Space Situational Awareness: S S A) を中心に宇宙安全保障分野で防衛省等との連携が大きく前進したが、他の分野 (S L A T S や赤外 2 波長) でも更に連携を拡充していただきたい。また、防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度を積極的に活用していただきたい。

2 . 民生分野における宇宙利用の推進

(1) 衛星測位

- i 特段の意見無し。

(2) 衛星リモートセンシング

- i 観測衛星が、日本だけでなく南米・アフリカその他諸国でも防災・社会問題解決のインフラになってきたことは評価できる。

【翌年度以降に向けた課題】

- i 2020 年に運用段階を迎える予定のセンチネルアジアについて、温室効果ガス観測技術衛星 2 号機「ALOS-2」と ISRO の IRS やタイの THEOS とのデータ利用の連携進展などを、JAXA 衛星の国際的な社会課題解決への貢献の 1 つとして、具体的に記述していただきたい。平成 28 年度業務実績等報告書の B-14 頁、B-27 頁にセンチネルアジアについての記述が存在するが、国際災害チャータの枠組での行動などであり、それを超えてアジアでのアジア・太平洋地域宇宙機関会議(Asia-Pacific Regional Space Agency Forum: APRSAF)の活動としての独自性、アジア内協力での JAXA の努力について具体性に記述していただきたい。

(3) 衛星通信・衛星放送

- i 特段の意見無し。

(4) その他の取組

【翌年度以降に向けた課題】

- i 定性的評価であるため書きにくいことではあるが、政府の S S A 体制検討を支援することにより、なにが変化し、それによってどのように日本の安全の貢献したのかを記述していただきたい。

3 . 宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化

(1) 宇宙輸送システム

- i 特段の意見無し。

(2) 宇宙科学・探査 (宇宙科学・宇宙探査プロジェクトのみ)

- i JAXA 共通ルールに従ってプロジェクト・マネジメントを行う体制が整い、実行されたことは評価に値する。
- i 多様な研究プロジェクトにおいて目標以上の成果を挙げており、適切な評価であると考ええる。

(3) 有人宇宙活動

- i S 評価が妥当と考える。アジア諸国だけでなく、アフリカの国との協力関係が始まったことは素晴らしい。JAXA が欧米諸国に依存せず、日本が自前で優れた技術を開発し、欧米諸国も認める業績を上げていることは、アフリカ諸国に大きな希望を与えるだろう。また、超小型衛星の放出は日本のベンチャー企業や新興国の宇宙産業への参加を容易にし、産業のすそ野を広げ、また、日本との協力で積極的な国々を増やすことになる

だろう。

【翌年度以降に向けた課題】

- i 第2回国際宇宙探査フォーラム(ISEF2)に向けた JAXA の活動、政府支援がどのようなもので、将来の有人宇宙探査のどの部分において成果を期待できるのかを具体的に記述していただきたい。

(4) 宇宙太陽光発電

- i 特段の意見無し。

(5) 個別プロジェクトを支える産業基盤・科学技術基盤の強化策

- i 特に中小企業の海外市場を開拓に貢献したことは評価に値する。

5 . 横断的事項

(1) 利用拡大のための総合的な取組

- i 特段の意見無し。

(2) 調査分析・戦略立案機能の強化

【翌年度以降に向けた課題】

- i 宇宙安全保障分野にとっても非常に有益な情報が配信されており、更なる活用のためにも、防衛省等、海上保安庁などの関連部署への配信の拡充を進めていただきたい。

(3) 基盤的な施設・設備の整備

- i 特段の意見無し。

(4) 国内の人的基盤の総合的強化、国民的な理解の増進

- i 特段意見はないが、評価が若干厳しいように感じた。

(5) 宇宙空間における法の支配の実現・強化

- i JAXA の人材が国連その他の国際機関の要職に就任するなど、宇宙活動に日本が大きな役割を果たしていることが国際的に認知されたことは素晴らしい。

(6) 国際宇宙協力の強化

- i JAXA と国連宇宙部の協定による「きぼう」からの小型衛星放出事業は、科学技術外交、宇宙外交として大変高く評価されており、さまざまな国際会議においてもしばしば特筆事項とされる。APRSAF の貢献や JICA と JAXA の連携取組も、国連宇宙空間平和利用委員会の成果報告書において(国連文書の関係から固有名詞は出していないが)特筆された。S に値する成果が上がったと考える。

(7) 相手国ニーズに応えるインフラ海外展開の推進

i 特段の意見無し。

(8) 情報開示・広報

i 特段の意見無し。

(9) 事業評価の実施

i 特段の意見無し。